

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770700146		
法人名	医療法人 緑の会		
事業所名	グループホーム イジュの花		
所在地	〒907-0001 沖縄県石垣市字大浜453番地の12		
自己評価作成日	平成27年11月22日	評価結果市町村受理日	平成28年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=4770700146-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成27年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほぼ毎日のように、ご家族の方々の面会があり、他の利用者との会話も弾んでいる。お正月、ひな祭り、浜下り、ハーリー見学、お盆のアンガマやエイサー、地域の夏祭り、敬老会など、季節感を大切に、ご家族にも協力して頂きながら理念を共有して、第2の家庭作りを目指している。利用者は昨年12月より、職員は昨年4月より変わることなく、信頼関係を築いている。運営推進会議を通して、自治会長や地域包括支援センター所長への状況報告等により、地域の方々の入所相談や来訪時に、介護保険についての説明をす事が出来た。ご本人の出来る力を活かした生活を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設13年を経過しており、母体施設の介護老人保健施設から離れた集落の中に位置している。運営推進会議の構成委員として、地域代表の自治会長、知見者として学校教諭が参加している。地域住民との連携が築かれ、地域行事への参加、近郊住民の認知症ケアの相談への対応等を通して、地域の情報を共有している。理念に基づく「第二の家庭」づくりの基幹である「利用者本位」の支援を職員は共有しており、担当制を取り入れ、利用者それぞれの生活パターンを把握し、ゆとりある日課の支援に努めている。現在は利用者全員が女性で、職員の介助は必ずしも同性介助とはならないが、本人の意向を尊重した支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成28年2月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝、昼、夕食前に、利用者、職員とで手をたたきながら唱え、共有して、介護現場でも振り返りながら活かしている。	理念は、地域密着型事業所への移行時に見直し「住み慣れた地域の中で安心な暮らし」を追加した。利用者が本来は家族と自宅で過ごしたいとの思いがあることを職員は共有し、理念に掲げた「第二の家庭」づくりを目指し、利用者本意の視点で支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りなどへ参加するだけでなく、昨年、地域の方が入所された事により、近所の方が来られたりと、交流が深まった。	地域の木工所の方が椅子等の修繕をしたり、近所から野菜等の差し入れが頻繁にあり、災害時訓練にも住民の参加が得られている。市の徘徊見守り事業にも参加し、地域包括支援センターと共に地域住民からの認知症対応の相談にも応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が入所された事により、来訪時に、介護保険の相談を受けたり、入所の申し込みを受ける事があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度、現在の所3回実施している。誤薬事故を受け、薬ケースを朝、昼、夕、寝る前と4ケースで分けていたが、一人ひとり9ケース準備する事で、その後、誤薬事故はなく過ごしている。	運営推進会議は年6回開催し、利用者や家族、行政職員等が毎回参加している。誤薬事故の報告を行った際に、委員から薬の管理方法の提案があり、現在の事故防止策に繋げる等の意見交換が行われている。議事録の整備と家族等への報告が不十分である。	運営推進会議は、事業所の取り組み状況を報告し、委員から率直な意見を受けて事業所運営の改善に取り組む等、会議の運営は問題なく実施されているが、会議録の整備及びその公表が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センター所長に参加して頂き、ホームの状況報告を行っている。地域包括支援センター所長より、地域の徘徊者情報を受け、ご家族の介護相談、入所申し込み、法人他施設を含めて検討している。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席しており、困難事例等の相談も連携して支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒などの事故発生時も、身体拘束を考えるのではなく、利用者本位の対策、環境整備や内服などを検討して、運営推進会議で報告している。	身体拘束廃止の方針をフロアに掲示し、拘束しないためにソファや椅子等を使って転倒防止の工夫をしている。職員は、毎年の職員研修で拘束をしないケアの主旨を理解し、共有している。家族には入居時にリスクについて説明し、全員から確認書ももらっている。	

沖縄県(グループホーム イジュの花)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はなかったが、マニュアルを準備して、職員へ夜勤時などに、目を通すように伝えている。身体的だけでなく、心理的、言葉の虐待にも気をつけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、権利擁護制度を必要としている方はいらっしゃらないが、今後、学んで行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに、説明、同意、交付を行なっている。不安や疑問点は、いつでも相談にのっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本年度はまだであるが、年度末に、無記名の利用者ご家族アンケートを行い、結果をご家族、職員、運営推進会議で公表している。ご意見箱も設置している。日頃から利用者、ご家族に、ご意見をうかがっている。	利用者全員が意思表示でき、ドライブの行き先等は利用者の希望を反映させている。毎年、家族アンケートで意向調査を実施しているが満足度が高く、意見等は殆どない。誕生会は誕生日当日に、本人の好物料理の祝い膳を調べ、家族も参加し、家族から好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	夜勤時などで、管理者が職員へうかがい、業務の改善や意見をくみ上げようとしている。	職員の意見は、会議はもとより職員が気付いた時点をその都度聞く機会としている。夕方から落ち着いた利用者があり、職員の要望で、落ち着くまでの間は管理者の勤務を13時～22時と多忙時に変更し、職員が安心して支援できる体制作りに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年4月より、同じ職員で働き続ける事が出来ている。人間的にも有休休暇がとれる環境を維持している。利用者本位を第一に考え、夜勤回数や業務の改善など、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	助成金を活用して、介護福祉士実務者研修を2人、受講している。		

沖縄県(グループホーム イジュの花)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームあかゆらが中心となっている認知症の人と家族を支える市民の会「うつぐみの会」の勉強会への参加や、沖縄県グループホーム連絡会の方々が、30名近く来られ、交流する事が出来た。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本位を大切にしている。傾聴して、信頼関係を作り、ケアプランに反映して、実践出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望等も傾聴して、信頼関係をつくり、認知症についてや利用者本位について説明、理解して頂き、共に支え合う関係を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時などに、他施設のそれぞれの違いを説明している。早急なサービスの必要時は、同法人の老人保健施設や小規模多機能施設との連携も図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんで頂く人、お茶パック詰めや野菜の下ごしらえを手伝ってくれる人、書道や読み聞かせが得意な人など、出来る力を発揮して頂き、皆さんで支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日のように、利用者のご家族の方々に来て頂いている。ご本人の誕生日その日での誕生会や、お正月、お盆、病院受診など、一緒に支えていく事で、利用者も安心されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前まで通われていた教会の方々には、面会や誕生会などに参加して頂いている。地域の祭りなどでは、友人、知人との再会が多々見受けられる。	これまでの生活の継続性を支援するため、利用者との会話や家族からの聞き取りで、馴染みの関係性を把握している。自治会長や以前利用していた事業所から情報を得ることもある。家族の協力を得て行きつけの美容室を利用している方が数人いる。	

沖縄県(グループホーム イジュの花)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士での洗濯物たたみや野菜の下ごしらえ、歌を歌ったりと関係性を重視して、食卓テーブル席などを考えている。お互いの体調を気にされる場面もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入退所はなかったが、病院受診時など、情報提供を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人は、自宅で過ごしたいと思われるが、在宅での生活が難しくなり、入所されるケースが多い。ご家族の協力を得ながら、理念でもある第二の家庭づくりを目指している。	居室担当制をとり、利用者を深く観察することで思いや意向の把握に努めている。フロアーには常に職員を配置して利用者寄り添い、見守り、利用者の動きに迅速に対応できる体制をとっている。生活スタイルは本人の意向を尊重して、食事時間を遅らせたり、遅く寝る習慣の方は24時就寝等と個別の支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族にうかがい、これまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、ゆっくりと休まれる方、2~3日おきに寝たり起きたりされる方、夕方、玄関に向かわれる方、深夜にお腹がすく方など、お一人ひとりを尊重して、職員が動くように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、居室担当職員などにうかがい、出来る力を活かす事を考え、ケアプランを作成している。説明、同意、交付を行なっている。	担当者会議に利用者と家族、必要に応じて医師や看護師が参加しており、介護計画にそれぞれの意向を反映させている。個別の計画書には、外出や書道等のレク活動、お茶バック詰め等の作業がサービス内容に記載され、毎月のモニタリングで評価し、見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿っての記録を心がけ、記録の書き方の本などで勉強している。内容、記録する時間帯など検討している。		

沖縄県(グループホーム イジュの花)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人のグループホーム、小規模多機能施設の管理者は、互いの運営推進会議に出席して、情報の共有、何が出来るか、質の向上に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、自治会長や地域の民生委員、住民代表の方々に関わって頂いている。地域の方が入所された事により、訪ねて来られ、交流が増えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみのかかりつけ医を受診されている方が6名、入院歴やもとのかかりつけ病院であった他法人の訪問診療を受診されている方が3名いらっしゃる。情報提供を行い、ご家族との連携を図っている。	利用者はそれぞれのかかりつけ医を受診している。受診の対応は家族が行うが、管理者も同行して直接医師に説明することが多く、受診内容は連絡ボードを活用して職員に周知を図っている。訪問診療後は、家族に電話等で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、日常のバイタルチェック、状態観察で、ご家族への報告、早めの病院受診へつなげている。特に訪問診療では、電話相談出来る体制であり、必要時は、急遽、訪問して頂く事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	環境の変化による認知症状の悪化予防の為に、入院時の利用者情報提供書、退院時のカンファレンスなど、継続したサービスを心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「入所中のリスクについての説明確認書」や「急変時の治療方針に関する意向確認書」などもふまえて、看護職がいないホームで出来る事や医療との連携について話し合っている。	事業所の方針として、胃瘻等の医療的処置を要する状態になったら、当法人の併設施設への入所を支援する事を運営規程で明示している。入居時に「緊急時の治療方針に関する意向確認書」を受理している。医療的処置を要しない終末期ケアが過去に1例あり、希望により今後も実施したい意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	8月に、救急法講習会にて、心肺蘇生法及びAEDの使用方法について、3名の職員が参加して、職員へ伝達している。		

沖縄県(グループホーム イジュの花)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月に避難訓練を行なったのみである。今年度中に実施していきたい。火災通報装置には、近所の方々の登録の協力を得ている。	年2回昼夜を想定した災害時訓練を地域住民も参加して実施している。救急法や心肺蘇生法等の講習も実施し、自動火災通報機器等の設備点検も定期的に行っている。玄関先には非常時用電灯やヘルメットを常設している。飲料水のみ備蓄されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室は、利用者の自宅と思い、「失礼します。」と、声をかけて、入室している。フロアも棚などで空間を仕切り、それぞれがくつろげる居場所づくりを行なっている。職員の声かけが、気になる時があり、その都度、理念に振り返ってもらっている。	本人本意で自己決定を尊重し、利用者の意向を重視した支援を心掛けている。同性介助を希望する利用者には、排泄や入浴は同性で介助しているが、それ以外の利用者はシフト制を優先している。呼称も利用者の前職である「先生」と呼ぶなど自尊心を尊重する対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	午前か午後の入浴や着る物、飲み物やおやつを選択など、なるべく選んで頂けるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や睡眠時間、夜間のテレビなど、ご本人のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみのシャンプーや石けん、クリームなどをご家族持参で使って頂いたり、入浴後や外出時の衣類などを選んで頂いている。ご家族にマニキュアをつけて頂き、笑顔が見られた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶パック詰めや野菜の下ごしらえ、下膳など、出来る力を発揮して頂いている。ホットプレートで一緒ににおやつ作り、職員もおやつは一緒に食べる事を心がけている。特に誕生会では、居室担当者が、ご本人の好きな物を取り入れて、お祝い膳を作っている。	食事は事業所で調理し、献立は法人の栄養士の助言をもとに、利用者の嗜好も考慮し、臨機応変に対応している。旬の食材を使用し、誕生会や行事等では祝い膳で食事を楽しんでいる。利用者は円卓を囲み、おやつ作りや食材の下ごしらえ等に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌にて、食事、水分摂取量を確認している。刻みやペースト食、トロミなど食事形態の工夫、持ちやすいコップなども検討している。主治医とも相談して、エンシュアリキッドを飲んで頂いている方もいる。		

沖縄県(グループホーム イジュの花)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいの方、一部、全介助の方など、個々に対応している。夜間は、入れ歯の消毒も行っている。業務日誌で確認出来るようになっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	コストや排泄量に応じて、尿取りパット、リハビリパンツ、テナを使い分けている。夜間は、ポータブルトイレ、テナ交換、トイレ誘導を行なっている。日中は、ポータブルトイレは片づけて、トイレ誘導を行なっている。	排泄の自立に向けて、昼間は全員トイレでの排泄を支援している。着替えや失敗時に即座に対応するため、トイレ内の棚に排泄用品を常備している。ポータブルトイレを嫌がる利用者には、夜間もトイレに誘導して本人の意志を尊重する支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に、ヨーグルト、牛乳、バナナなどを毎日提供している。食前体操や歩ける方は、居室から遠いトイレを使って頂くなどの運動面、水分補給にも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日に4～5名の入浴で、2日に1度、業務を調整して、夕方にも入浴出来る体制を整えている。同性介助希望の方には、意向を尊重している。午前か午後か、又は好きな音楽を聴きながらなど、ご本人にうかがっている。	入浴は、一日おきのシャワー浴を基本としている。日や時間は利用者の希望により調整して応じている。入浴を嫌がる利用者への対応の工夫として、脱衣場にラジカセを置き、個々の好みの音楽を流している。入浴後は保湿クリームや塗布や水分補給に留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、なかなか寝つけない方は、0時頃までテレビを見ている方もいらっしゃる。職員とのお茶やユンタクを楽しみにされている方もいらっしゃる。夜食を食べないと休めない方の為に、お粥など常に準備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬があり、運営推進会議でのアドバイスを受け、利用者9名分、個々の薬を9ケースに分ける事とした。その後、誤薬事故はなく、経過しています。服薬確認表でのチェックも継続している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生卵をケースに並べて頂いたり、お茶パック詰めなどを自分の仕事と思って頂いている方、洗濯物たたみ等のお手伝いや歌や踊りなど、役割や好きな事を見い出し、「ありがとう。」とお伝えしている。		

沖縄県(グループホーム イジュの花)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベントや天気の良い日にドライブ等の外出、ご家族の協力も得ながら、愛犬とのドライブや公園での散歩を楽しみにされている方もいらっしゃる。なるべくお正月やお盆など、自宅への外出の協力も頂いている。	日常的に隣接する福祉センターへ散歩に出かける利用者や家族の協力で頻繁に外出する方がいる。海神祭等の地域行事や大型船の見学等には全員で外出し、気分転換を図るよう努めている。個別に、図書館で本を借りたり、日用品の買物の支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金の所持の希望者はなく、必要な物は、一緒に買い物に行かれたり、ご家族に準備して頂いている。年金の心配をされる方は、電話で話されたり、面会時にご家族と話しをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、ホーム電話子機にて、いつでも居室にて、かけたり受けたりする事が出来る。手紙などは、居室のコルクボードなどに貼り付け、いつでも思い出せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お正月やひな祭り、クリスマスなど季節感のある飾り付け、玄関に日頃の写真を掲示している。誕生者の日頃の写真も1ヶ月程度掲示して、面会などに来られた方々からも祝福されている。	居間は、玄関から直接生活場面が見渡せる配置であるが、居間と食堂を棚で仕切り、ソファや椅子を配置して、プライバシーや利用者が寛げる場を確保する工夫がなされている。壁面の行事の写真や利用者の生活場面の拡大写真は、家族から好評を得ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを棚などで仕切り、椅子やソファも所々に配置して、外を眺める所、ソファでくつろぐ所、テレビを楽しむ所など、それぞれお気に入りの所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅と思って、ご家族と相談しながら工夫している。自宅から収納ケースや洋服を掛ける物を持って来て頂いたり、写真を貼って、自分の居室と理解して頂いたり、安心な布団や枕を持ってきて頂いている方もいらっしゃる。	居室は家族の協力で壁の飾り付けをし、家具等が設置され、利用者の状況に合わせてベッドの配置等が工夫されている。居室には鏡付きの洗面台が設置され、口腔ケアは居室で行っている。家族が寛げるよう居室にソファが置かれ、落ちついた雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のベッドやフロアのソファなどは、安全につかまり歩行が出来るように配置している。特に夜間は、転倒のリスク、トイレまでのつかまり歩行を考えて、ソファやテーブルを配置し直している。		